



一世の人と一人の文字を抄へてしむべし後宇多院の御諱

一世にさしせむ世ありあや ヨロヒト 一より人ささしめむさなるがひ

更衣の御心くされ心や又なつがと深と御さるる也又院

よりさし ヨロヒト 一よりす 便也 縁入の夏よ タリ エ

もつし ヨロヒト 一よれつねの山のうづもみ

是のうづもみさ女の御心くさるるのまへさやうれぬ人とりん

一よりさあ ヨキヌ 不道也 ヨキヌ 一よりちり ヨロヒト 一よりちり

一よりさあ ヨキヌ 不道也 ヨキヌ 一よりちり ヨロヒト 一よりちり

あはれ人のやうにさや ヨロヒト 一せとさし ヨロヒト 一よりちり

あはれさるれいさや ヨロヒト 一せのさし ヨロヒト 一よりちり

一より人 ヨロヒト 一よりちり ヨロヒト 一よりちり

一より人 ヨロヒト 一よりちり ヨロヒト 一よりちり

御とつし ヨロヒト 一よりちり ヨロヒト 一よりちり

一より人の御心くさるる源氏十六人の息女三

一よりちり ヨロヒト 一よりちり ヨロヒト 一よりちり

とささるる心や ヨロヒト 一よりちり ヨロヒト 一よりちり

一よれつねの御心くさるる御心くさるる心や

一よりちり ヨロヒト 一よりちり ヨロヒト 一よりちり

の夏もはあ ヨロヒト 一よりちり ヨロヒト 一よりちり

一よりちり ヨロヒト 一よりちり ヨロヒト 一よりちり

一よりちり ヨロヒト 一よりちり ヨロヒト 一よりちり

一よりちり ヨロヒト 一よりちり ヨロヒト 一よりちり

一よりちり ヨロヒト 一よりちり ヨロヒト 一よりちり

一よりちり ヨロヒト 一よりちり ヨロヒト 一よりちり

一よりちり ヨロヒト 一よりちり ヨロヒト 一よりちり

の字と万葉よ用

惠心僧都号横川僧都

源氏左遷の夏也

夏也字治の卷よし

手傭つ伝るるべし

尚有徑寸之珠照車前後各十土業楚主臣階侯蛇病愈

と侍て楚主は献じ夜中よ常よ有光明故名夜光玉

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一世人の

一よ何の僧都中文の

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一よ何の僧都

一 夕のけく 弄のびくちる心也

後一 夕のけく

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

一 夕のけくひちぢも 玉づく後三

求中虚上下東極^ニ天海^ヲ蓬壺^ニ見^ル高仙山^ニ多樓閣^ニ西^ニ
廂下^ニ洞^ヲ東^ニ習^ハ岡^ニ其^ノ門^ヲ署^曰玉妃太真院^ニ長恨^平傳^ニ
一玉のちのこゆ子 玉のちのこゆ子 玉のちのこゆ子

た

一玉のちのこゆ子 玉のちのこゆ子 玉のちのこゆ子

一たゆげ 一たゆげ 一たゆげ

一たふらげ 一たふらげ 一たふらげ

一たふらげ 一たふらげ 一たふらげ

一たふらげ 一たふらげ 一たふらげ

一たふらげ 一たふらげ 一たふらげ

一たふらげ 一たふらげ 一たふらげ

一たいくち 一たいくち 一たいくち

一たいくち 一たいくち 一たいくち

一たいくち 一たいくち 一たいくち

一たいくち 一たいくち 一たいくち

一たいくち 一たいくち 一たいくち

一たいくち 一たいくち 一たいくち

一たいくち 一たいくち 一たいくち

一たいくち 一たいくち 一たいくち

一たいくち 一たいくち 一たいくち

一たいくち 一たいくち 一たいくち

一たいくち 一たいくち 一たいくち

一たいくち 一たいくち 一たいくち

一たいくち 一たいくち 一たいくち

一たうがこ鼻紙也 スナヒ 一たゆさひし様やすし也 ユラコ

一たそれ誰ぞとうらぶほごころさきと云也 サキ

一たゆさすもまねやもむい由也 ユダ

一たわつらの子れ禁中こそ源の宿也や女人武家 ブケ

よりともや院もてい武者不じい源の番の者を源口こん

得あや

云也

物らり

孫也系ありこも

とつふ国司い二任四ヶ年こそ国司よりちりてふまきりに必り
らるやその受候ごとくに源よりいあもそんとてかづけひらるや

一たむけふ四様ふ人二務ふ

一大片の後もて明石入道大片的

一たくの必のいり播磨国司

一大納まのびすめ堂の由也 一たらしらるり 色々いざと立

とまり流るぬぞまの戸ごらるればさるるべしにもわぬと云也

一たいよ東の射也

一たの字とそへらり

地下の系人をとそその役也 一たわもれわすこと云也

堂今葉大鼓い必堂下もて打る也 一た鼓とそくうらんのもも

日候上競馬六番の時全上自打大鼓給ひ時置堂上也

一大もんあ葉中もて女房達のわら也

一たもやら婀娜花仙家 一たらんわん路も 花鳥云

先帝上儒者奉作獻題次書韵字盛中院置庭中
文臺上近衛次将先探御料韵二字置莒盖昇自御奉

階獻之次王卿タカヒト堪屬タカヒト文者タカヒト文人タカヒト未各進タカヒト文タカヒト其頭タカヒト探タカヒト一字タカヒト
見之タカヒト夢タカヒト官タカヒト性タカヒト名タカヒト及タカヒト所タカヒト探タカヒト字タカヒト也タカヒト今案タカヒト探タカヒト韻タカヒトハ各タカヒト一字タカヒト詩タカヒト也タカヒト
悉タカヒト韻タカヒト字タカヒトクタカヒトリタカヒト也タカヒト故タカヒト懷タカヒト紙タカヒト端タカヒト作タカヒト云タカヒト春タカヒト日タカヒト同タカヒト賦タカヒト春タカヒト夜タカヒト翫タカヒト楊タカヒト花タカヒト
各分タカヒト一字タカヒト應タカヒト製タカヒト詩タカヒト其タカヒト字タカヒトヲタカヒトめタカヒト以タカヒト書タカヒトへタカヒト也タカヒト

一 大将の表 大将セギ儀セギ義セギ深セギくセギもセギ又セギ相セギ才セギでセギ兼セギずセギくセギ也セギ源セギ氏セギハセギ以セギ時セギ
参議セギ大将セギ也セギ宰相セギ劉セギ大将セギ例セギ藤セギ原セギ房セギ前セギ冬セギ嗣セギ云セギ常セギ行セギ一セギ条セギ指セギ故セギ

一 大将の表もけうまうり給参儀二人の内一人をてあつと也セギ
一 大将の表もうをめて後 妻上のさる給ひくハ其息取ハ源の
か妻うもとせしうりも又野の文のうりもも心なれと也

一 たけくねハ強ちされと也 一 たさくころゆい 採セギ新セギ及セギ菓セギ
一 たけくねハ強ちされと也 一 たさくころゆい 採セギ新セギ及セギ菓セギ

蘇セギ隨セギ時セギ恭セギ敬セギ與セギ 提セギ婆セギ達セギ

一 たうごころい 後セギりセギ也セギ

一 たがこれうーやく 弄セギ天セギ迴セギ去セギ史セギ雲セギ將セギ霧セギ唯セギ是セギ西セギ行セギ月セギ

不セギ遷セギ菅セギ 一 たけあめり垣 五セギ茶セギ三セギ面セギ新セギ草セギ
一 たがのぐちど 彈セギ碁セギ

後漢書梁冀能彈碁 和國うそいそめ物也 河委

一 たけくちど 海邊セギ一セギたセギうセギりセギもセギ玉セギ裳セギハセギ後セギ撰セギハセギ子セギノセギ奇セギ女セギのセギ裝セギ
一 たけくちど 裳セギハセギ女セギのセギさセギめセギハセギそセギうセギ物セギ也セギ

一 たうごいの内子ハ 太セギ大セギ尺セギの内セギ女セギ 舞セギ黒セギのセギいセギまセギうセギ也セギ兼セギ香セギ香セギ也セギ
一 右上天皇セギノセギ弄セギ女セギつセギがセギ尼セギニセギ成セギ

持統セギノセギ始セギ女セギ帝セギ也セギ藤セギ雲セギのセギ女セギ院セギのセギ号セギ号セギハセギ持セギ統セギのセギ例セギニセギ由セギりセギ給セギ也セギ
一 右上天皇セギノセギ弄セギ女セギつセギがセギ尼セギニセギ成セギ

花鳥

女院 モレ 若 ハ 位 ヨ つ タ 終 リ ぞ 院 ハ 成 ル ハ 一 ノ 院 ヲ ぞ ト 言 フ

上天皇の マシ 尊 コト と ハ 伊 ハ 守 ノ 但 ト 封 コト 年 ノ 官 年 爵 ヲ ぞ ト 言 フ

異 モ う レ 言 フ じ ツ 言 フ 且 ハ 伊 ハ 守 也 封 ト 封 コト 年 ノ 官 年 爵 ヲ ぞ ト 言 フ

各 子 入 リ 百 ノ 戸 ノ 也 ト 言 フ 上天皇 ヨ ち ズ 入 リ 二 子 戸 ノ 終 リ ノ 也

院 司 女 院 ぞ ル 終 リ ぞ ト 言 フ 判 官 代 主 典 代 也 ト 言 フ 三 宮 ハ 太 皇 太 后 文 皇 太 后 文 皇 太 后 文

一 此 ノ 嶋 ハ 明 石 上 ノ 坂 也

一 此 ノ 嶋 ハ 氏 氏 河 原 ノ 也 ト 言 フ 且 ハ 伊 ハ 守 ノ 也 ト 言 フ

一 此 ノ 嶋 ハ 氏 氏 河 原 ノ 也 ト 言 フ 且 ハ 伊 ハ 守 ノ 也 ト 言 フ

一 此 ノ 嶋 ハ 氏 氏 河 原 ノ 也 ト 言 フ 且 ハ 伊 ハ 守 ノ 也 ト 言 フ

のうづ づ び も 多 き 塔 ノ 壁 ト び ら せ 焼 わ し ぐ ら せ ら せ ら せ

丁 二 び ら ぐ ら ぐ ら ぐ ら ぐ ら ぐ ら ぐ ら ぐ ら ぐ ら ぐ ら ぐ ら ぐ

物 次 ヨ 多 キ 丁 二 び ら ぐ ら ぐ ら ぐ ら ぐ ら ぐ ら ぐ ら ぐ

一 竹 ら ら り 物 次 ヤ 梅 壺 方 也

一 貞 観 十 八 年 二 月 廿 五 日 以 泥 藏 院 為 太 光 寺 横 部 寺 に も

の 子 也 大 臣 の 息 太 子 の 名 を 習 ふ の 例 也

一 大 将 内 大 臣 ヨ ち リ あり ひ て 内 大 臣 執 政 例 海 河 開 白 忠 義 天 一

一辰の日の暮つるはつりす十一月五日より始若世二五日ハ
 下の早也彼上の遅くも有例凡五日ハ舞妓糸入寅日と云
 節の心之外日ハ童女ハ鏡辰日ハ又節の後の節會の日也
 辰の日の暮つるはつりす不審也豊明節會ハ同中乃辰
 見若み節の初ハ打もさるわてそめもてそさるは
 一たうごりのつるさうかりハ治年ノ宿年ノ壽也

一大学の志その日進士注曰可進受爵祿者也聖武天皇

神龜年始進士武帝壬系圖進士及中例略之再一勅

秀文よりかひづれも進士と云也必しも中よりわりのり

れた云付ゆる也

一大史のぐん河太宰府一員ハ

仲權大裁小裁大監人小監人大典太小令史等わりの裁叙爵

時ハ御ご云監叙爵の時大史監と号す大監ハ正六位下小監
 從六位大監ハ正六位下相苜官なれど從五位下ノ叙一わ
 れも大史の監と稱さるるなり

一大ひさ大史者觀音のり也

一たゆる墜亂史記とらづれとらづるさそ際也

一たのりも引出のべさる長根ハむすび付くると根ノ音

とるくともいふずへてそめ淵のゆとそさるる也

一たさうらうらん六日武徳後騎射とらづ打銃の事也

唐人の狼牙もて馬ノ音ハ迷まはるるびらと打銃と云其時
 養子すうあは打銃糸とい云也納額利も六日の競馬の日雅家
 寮是也養子情質の亂声ハ必競馬ノ事也

御記

三

一たつら〜
一たつら〜
一たつら〜
ゆら〜

一たつら〜
一たつら〜
一たつら〜

一たつら〜
一たつら〜
一たつら〜

一たつら〜
一たつら〜
一たつら〜

一たつら〜
一たつら〜
一たつら〜

大饗事。西文記云。大納言白大御二氏中納言同は一氏衆
彼大御一氏衆參議四位柳色小御六位細長一連之略

一たつら〜
一たつら〜
一たつら〜

一たつら〜
一たつら〜
一たつら〜

一たつら〜
一たつら〜
一たつら〜

一たつら〜
一たつら〜
一たつら〜

一たつら〜
一たつら〜
一たつら〜

一樓の櫓のよほあつて心してまゝにきりまらひとまふ

酒のひちりあや 再冬 一松竹して張りてころこ

久人の心のうつろひ 冬 後で改定あれころり

一たけちりちり ワゴ 笛のともうぐ紙和琴のうひして引と

一玉ころり 珎も宿 一たちり 親おはれ中を

新治ころり タニ 地やと心治也 タニ 一たまふれ 殯友見葬礼記式

殯へ指ころり モカ 人々 ソ 金屋也 殯友 ソ 頼生 ソ ころり事ころり也

宇治の エハ 新波の エハ ころり エハ あひ エハ ころり エハ 地 エハ やの エハ の エハ め エハ ころり エハ ころり エハ

ころり エハ 一たの エハ 折 エハ ころり エハ 各 エハ ころり エハ 家

の エハ 新 エハ ころり エハ 也

れ

一ねう まろ ころり まろ 係 まろ 氏 まろ の まろ ころり まろ ころり まろ 也

一れいの まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ 也

一れい まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ 也

掌 まろ 天文 まろ 曆 まろ 教 まろ 風 まろ 雲 まろ 氣 まろ 色 まろ 謂 まろ 天文 まろ 者 まろ 日月 まろ 五 まろ 星 まろ 女 まろ 八 まろ 宿 まろ 也

曆 まろ 教 まろ 者 まろ 計 まろ 日月 まろ 之 まろ 度 まろ 教 まろ 而 まろ 造 まろ 曆 まろ 授 まろ 時 まろ 也 まろ 氣 まろ 色 まろ 者 まろ 風

雲 まろ 之 まろ 氣 まろ 也 まろ 言 まろ 以 まろ 五 まろ 雲 まろ 之 まろ 色 まろ 視 まろ 其 まろ 吉 まろ 凶 まろ 候 まろ 十 まろ 二 まろ 風 まろ 氣 まろ 知

其 まろ 秋 まろ 許 まろ 一 まろ 應 まろ 和 まろ 二 まろ 年 まろ 七 まろ 月 まろ 廿 まろ 日 まろ 黑 まろ 雲 まろ 氣 まろ 廣 まろ 三 まろ 次 まろ 許 まろ 起 まろ 坤

且 まろ 良 まろ 康 まろ 和 まろ 二 まろ 年 まろ 正 まろ 月 まろ 五 まろ 日 まろ 白 まろ 雲 まろ 廣 まろ 三 まろ 次 まろ 許 まろ 經 まろ 天 まろ 旦 まろ 東

西 まろ 一 まろ ね まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ 也

一 まろ ね まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ 也

一 まろ ね まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ 也

一 まろ ね まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ 也

一 まろ ね まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ 也

一 まろ ね まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ 也

一 まろ ね まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ 也

一 まろ ね まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ ころり まろ 也

モニギタラクゴラホイ 文章得業生ヲ補す是ヲ進士トモ云リ或ハ前ヲテ勅諭セテ

マテテ試ラシムルモ文章生ヲ補シテのちハ方略の宜方と云テ裸

試トシテのちハ方略の宜方と云テ裸

一 れいのそんでん くらあももあふあわれべ例とつら

一 れのうら くらあげまれの額をとり

一 けうわう 陵王樂也 一 れのそとせ給 毎月八日中堂

よとや

ろ

一 けうわい けい 精 一 けいの 一 けいの 一 けいの

一 けいの けい 一 けいの 一 けいの

一 けいの 一 けいの 一 けいの

元服のちそひが 女系もろ

一 けいの 足下花人をうづつ

一 けいの 柳也 一 けいの 柳也

中のあよて三のおととけんこれ

一 けいの 一 けいの

一 けいの 側付也 一 けいの 一 けいの

一 けいの 一 けいの

一 けいの 一 けいの

一 けいの 一 けいの

一 けいの 一 けいの

一 けいの 一 けいの

一うのたれがうたれもや 一うじさぬるを凡よりうら

と云や世はそびく月一 一うじりめくはけりあらし

一うの人々は くれもさくぬ人さきよ

一えうづらの声 鷹の八月十日未だ初て候や

一うよきれよるごんや 一うや 初夜

一ううづまん 琴や 湯衣の上もや

一うがや とうじつふ初や 涙の涙出さぬや

一袖くも せむい 袖も衣ぬこ出さぬや ぬいさぬや

一ういさおぬら とうらうらうらうらうらうらうら

一袖ぬら とうらうらうらうらうらうらうらうらうら

一ういさぬら とうらうらうらうらうらうらうら

涙の涙のそら立れぬや

一うのたれの 袖と衣えさ 儒

者の道者のぬい

一袖くも 衣 舞の袖を

一ういさぬら とうらうらうらうらうらうらうら

一ういさぬら とうらうらうらうらうらうらうら

一ういさぬら とうらうらうらうらうらうらうら

一ういさぬら とうらうらうらうらうらうらうら

一ういさぬら とうらうらうらうらうらうらうら

一ういさぬら とうらうらうらうらうらうらうら

一ういさぬら とうらうらうらうらうらうらうら

一ういさぬら とうらうらうらうらうらうらうら

一ういさぬら とうらうらうらうらうらうらうら

源中にありては物よれ息所の誠力をあまら入治也

一袖の上の玉のさびけくさるん 末勅

一えれをさるるれを かびく せむれをれを

一うさくさるるびる也 次子 一うられせうそこ 不戒を

と云也 わ 一うさくさるるすりうさくさる

うさくさる 瑞 事倚杖自歎息 俄頃風定雲墨色 杜詩

桂嶺瘴事雲似墨 洞庭春冬水如天 柳子厚詩

一うひきてゆさやうさくさる 俗 びくさるさくさる

一うさくさる わ びやう 深 のぬるさくさる

うさくさる い けり は ぬるさくさる

一うれ入るぬ 寛 平造弼云 今頃 云々 中 令貢二人

此其子必令承負 いぬさる ぬるさくさる ぬるさくさる

とるりよ下略 い ぬるさくさる い ぬるさくさる

けつ下 い ぬるさくさる い ぬるさくさる

大 い ぬるさくさる い ぬるさくさる

と い ぬるさくさる い ぬるさくさる

義和 い ぬるさくさる い ぬるさくさる

侍後 い ぬるさくさる い ぬるさくさる

黒方 い ぬるさくさる い ぬるさくさる

と い ぬるさくさる い ぬるさくさる

者 い ぬるさくさる い ぬるさくさる

あ い ぬるさくさる い ぬるさくさる

一 い ぬるさくさる い ぬるさくさる

司家

五

一 ワレト うれしむさめさる ガクニ 樂書曰 師文之變 易寒暑 漆堂之感 トラス 動風雷之謂 琴復也 クサハ 琴書云 師曠 晉之樂也 工於琴 クサハ 師曠 晉之樂也 工於琴 クサハ 師曠 晉之樂也 工於琴

一 クサハ 神易寒暑 占風雨 為晉平公 鼓之 感玄鶴 下擊

一 クサハ ういさうりさく クサハ そのさうりさく クサハ

一 クサハ ういさうりさく クサハ そのさうりさく クサハ

一 クサハ ういさうりさく クサハ そのさうりさく クサハ

一 クサハ ういさうりさく クサハ そのさうりさく クサハ

一 クサハ ういさうりさく クサハ そのさうりさく クサハ

一 クサハ ういさうりさく クサハ そのさうりさく クサハ

一 クサハ ういさうりさく クサハ そのさうりさく クサハ

一 クサハ ういさうりさく クサハ そのさうりさく クサハ

一 クサハ ういさうりさく クサハ そのさうりさく クサハ

一 クサハ ういさうりさく クサハ そのさうりさく クサハ

一 クサハ ういさうりさく クサハ そのさうりさく クサハ

一 クサハ ういさうりさく クサハ そのさうりさく クサハ

一 クサハ ういさうりさく クサハ そのさうりさく クサハ

一 クサハ ういさうりさく クサハ そのさうりさく クサハ

一 クサハ ういさうりさく クサハ そのさうりさく クサハ

班女シヨウノメの後ノチにすてられらるコジ右ミダと侍シ後ノチに名ナ知チして下シるコトをシゆヒけ
 るコト也也白シロキ麻マとありシ首ウデ名ナよキそノひキーキあキあキ也
 一ヒトつツふフ鳥トリのノ可カ怜レ痴チ狂キヤウ半ハ半ハ鷲シユ入ニ落ラク媚メ相サウ鷲シユ三サン更メイ唱シヤウ院エン
 権ケン伝デン密ミツ 一ヒト袖スエかカれレ一ヒト音ネのノ人ヒトかカらラしシぬヌよヨ

一ヒトつツひヒのノあアらラやヤうウさサうウとトむムれレとトばバあアらラり
 一ヒトつツひヒ座ザもモとトぬヌ也也 一ヒトつツひヒ坐ザすスらラさサらラりシ
 一ヒトつツひヒ月ツキ也也 一ヒトつツひヒ涙ナミ也也 玉タマづヅくク大ダイ丈シヤウ監ケンぞゾ
 一ヒトつツひヒうウのノ族ウヂ也也 一ヒトつツひヒそソてテなナしシてテ又マタ殺コトとトせセ也也
 一ヒトつツひヒ依ヨ不フ也也 愁シユ殺コト矣ヤ 殺コトとト侍シとトゆユりリ大ダイ概ガイ殺コトのノ字ジちチもモ一ヒト
 一ヒトつツひヒうウとトせセらラやヤうウちチらラりリ 天テン運ウンのノもモ
 一ヒトつツひヒちチちチるルきキれレハハうウちチらラりリ也也

一ヒトつツひヒくクくクくクくク地チ人ジンのノ女メのノちチりリとトわワらラりリとト云ク

一ヒトつツひヒけケさサ 病ヤマトちチげゲもモ也也 一ヒトつツひヒちチらラりリ 雜ツクシ面メン
 一ヒトつツとト 集ツク 日ヒ 景ケイ 記キ 一ヒトつツひヒ 魂ツミ けケいイんンへヘうウちチもモあアらラ

一ヒトつツひヒちチりリけケうウちチりリけケとト同ドウ心シン也也 一ヒトつツひヒつツとト云ク
 一ヒトつツひヒがガきキんンがガいイ 清セイ涼リヤウ殿テンのノ東ヒガシのノ庭ニハ月ツキ西ニシのノ庭ニハよヨきキ花ハがガにニ侍シ也也
 一ヒトつツひヒれレぐグ 徒ト然ゼン也也 一ヒトつツひヒとト人ジンあアつツらラうウ心シン也也 洗センどドふフとトもモ
 一ヒトつツひヒちチりリぬヌ 徒ト幸コウ 養ヤウ 不フ 繫ケイ 舟フネ 文ブン 選セン
 一ヒトつツひヒさサくク 心シン 也也 一ヒトつツひヒつツとト云ク 支シ 願ガン ちチらラうウづヅえエ也也
 一ヒトつツひヒさサらラうウ 官クワン 位イ 也也 一ヒトつツひヒちチりリぬヌ 心シン 也也
 一ヒトつツひヒちチりリぬヌ 女メのノ馬ウマがガらラうウちチらラりリとト云ク 一ヒトつツひヒちチりリぬヌ 心シン 也也

あまのつらきものぞいづれもよみしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

一つはやくしるべし

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

うけりしと表といふりつひやと一人のまされはり可別

一 つまみれ入より給 ナホ 意大將さればそのつとれ人をとも申將お將

あぶら大將より一人をよびて紐あや

一 つとていそ ヤキ子 浮海つひそらの前身のみまひられつとていそと

つとていそ ウツ子母 一いつつとちびの夕月夜 花の

うら四月一日比とていそとやうてを前の初より七日は夕月夜と

あり阿仏記より七日の月を一日比の夕月夜といふ

一月より八日 ヤクニ 葉竹の縁目也

ね

一女 キヤキ 二位三位よりうら后のつとていそと上臈の地方をとも位也

一 ねらひ チニケヒツキ 住人 チニケヒツキ 口をともとていそとていそ也

一 わびげ マカガハ 一 わびげ マカガハ 一 わびげ マカガハ 一 わびげ マカガハ 一 わびげ マカガハ

一 わび マカガハ 一 わび マカガハ 一 わび マカガハ 一 わび マカガハ 一 わび マカガハ

一 わび マカガハ 一 わび マカガハ 一 わび マカガハ 一 わび マカガハ 一 わび マカガハ

一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ

一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ

一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ

一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ

一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ

一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ

一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ

一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ 一 マカガハ

正月子日コノツキガヒハルカニ 登岳トケ 遙望トシホシ 四方ヨウホウ 得陰陽ウケインヨウ 靜シヅカ 氣除キノヘ 憂ウレハシ 恤シヅメ 之ノ 述ツキ

一ヒト 祈言ノリコト 祈ノリ 言コト わづらひする也又神カミ 下シタ のりす
一ヒト 子日コノツキ ありに 芳カガヒ の南ミナミ 白シラ 也トシ 正月コノツキ の子日コノツキ 赤アカ 餅モチ 多オホシ 也
一ヒト わづらひに 祈ノリ 言コト 祈ノリ 言コト わづらひする也又神カミ 下シタ のりす

わづらひにニ 過ヒラカ する也 一ヒト 女メ 小コ 左サ とわらやうあるとそ
何ナニ 糸イト 二ニ 糸イト 后ノチ の業ノブ 平ヘイ 終ハジメ 片ハチ は通ツラシ 路ヂ 一ヒト ずらひええ後ノチ 撰セン
云クニ 一ヒト づらひに 後ノチ 系ケイ 極キョク のちとありはくうけりモトヨシ 元ゲン 良リョウ のとこ
ハシハシ 敷シ 也

一ヒト 祈ノリ 言コト 祈ノリ 言コト わづらひする也又神カミ 下シタ のりす
一ヒト 女メ 小コ 左サ とわらやうあるとそ
何ナニ 糸イト 二ニ 糸イト 后ノチ の業ノブ 平ヘイ 終ハジメ 片ハチ は通ツラシ 路ヂ 一ヒト ずらひええ後ノチ 撰セン
云クニ 一ヒト づらひに 後ノチ 系ケイ 極キョク のちとありはくうけりモトヨシ 元ゲン 良リョウ のとこ
ハシハシ 敷シ 也

一ヒト 祈ノリ 言コト 祈ノリ 言コト わづらひする也又神カミ 下シタ のりす
一ヒト 女メ 小コ 左サ とわらやうあるとそ
何ナニ 糸イト 二ニ 糸イト 后ノチ の業ノブ 平ヘイ 終ハジメ 片ハチ は通ツラシ 路ヂ 一ヒト ずらひええ後ノチ 撰セン
云クニ 一ヒト づらひに 後ノチ 系ケイ 極キョク のちとありはくうけりモトヨシ 元ゲン 良リョウ のとこ
ハシハシ 敷シ 也

一ヒト 祈ノリ 言コト 祈ノリ 言コト わづらひする也又神カミ 下シタ のりす
一ヒト 女メ 小コ 左サ とわらやうあるとそ
何ナニ 糸イト 二ニ 糸イト 后ノチ の業ノブ 平ヘイ 終ハジメ 片ハチ は通ツラシ 路ヂ 一ヒト ずらひええ後ノチ 撰セン
云クニ 一ヒト づらひに 後ノチ 系ケイ 極キョク のちとありはくうけりモトヨシ 元ゲン 良リョウ のとこ
ハシハシ 敷シ 也

一ヒト 祈ノリ 言コト 祈ノリ 言コト わづらひする也又神カミ 下シタ のりす
一ヒト 女メ 小コ 左サ とわらやうあるとそ
何ナニ 糸イト 二ニ 糸イト 后ノチ の業ノブ 平ヘイ 終ハジメ 片ハチ は通ツラシ 路ヂ 一ヒト ずらひええ後ノチ 撰セン
云クニ 一ヒト づらひに 後ノチ 系ケイ 極キョク のちとありはくうけりモトヨシ 元ゲン 良リョウ のとこ
ハシハシ 敷シ 也

今ぬいといさればぐの爲也 一ヒト 中ナカ 二ニ 中ナカ 三ミ 中ナカ 三ミ 中ナカ

も時毛の生らるよとて太刀をぬて引らむ。勅使たりと
の多へいけらるる也

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

れらるるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 一とよむるぬぬのわ

一 ちりも〜もう〜人 表裏同士の濃也。是も旧儀也。花上

り今やうらゝいさぬをいふなり。みろを〜谷やうらゝ

ら表同士のうらゝとらや 一七日れちり忍く〜 白馬ひら

らりのもや。天武天皇十年正月七日。所尚抄教案

一 ちりも〜うらゝ 追儻十二月晦日除夜。儻と追事也。鬼や

らひと云。追の字とや。ふ〜む也。儻の字とや。ふ〜ひと

ひや。姑自禁中。追諸家。一名うらゝいおひ。昔れ名あふ

玉芽。うらゝ落花形。鴉通夫。うらゝ名も地も〜也。石芽。うらゝは

一 内えんちり。正三月中旬。清涼夜。うらゝ文人をりて詩を

依り講せり。うらゝり。主上并。執柄赤ら。袍と。糸と。保元

信曲。行て。後ハ地。うらゝ也。

一 ちりれゆも。これ十の流を中。用申れ。と云。是ハ〜りて。まて

か。流ハ九十。途中の流と。為巾と。ゆと。と云也。妙善院の流。

ハ。〜りて。まて。うらゝ也。中のと。ばらと。ゆと。うらゝ也。大方中

ハ。細〜と。心持秘流也。一。ちり〜と。い〜と。や。内侍。中將

と。れ申。ゆら。うらゝと。い〜と。や。うらゝも。も。て。うらゝと。や。か。と。

い。うらゝ也。うらゝのうらゝ。うらゝと。うらゝ。ゆら。ゆら。

一 南風の儀のえん。南風。儀ゆら。ゆら。外花。葉の。復先例。ゆ

之。南風の。紫雲。葉也。慈。葉。例。淡。誠。弘。仁。三。於。神。泉。苑。有。花。

案。事。是。初。也。南風。案。例。村。上。康。保。二。三。於。南。風。有。案。

案。云。時。探。韻。例。延。長。四。年。二。月。亦。例。也。又。慈。葉。有。案。示

う。例。天。曆。三。三。十二。右。う。地。下。案。人。む。り。て。堂。上。の。案。

波のくまへの例也

一七瀬 ナセ 七瀬のこまご今ナセのせよ

七月月... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一わりの流... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一七七日... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一礼の... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一やぶ... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一りな... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一らん... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一や... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一み... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一やう... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一や... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

一... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を... ナセ 七瀬を...

若菜の父いぢてこの紫よき唐夜也カラヨモ然ハ蔭萌黄カスモヨキ

河海よりつるお邊なりカハカイ 一ちんばいもあれをくまらひサタ

くまらぬ神也イナ 一夏の月もさほぐい細カウク 友のり

ちと端くされは秋と秋の中もあつさ時い友といふ也

一ちんばいもあれをくまらひのり 長哥也キョウカ 長哥短哥タン

のり家々の口得極よ去り然も三十一字は哥を短哥と心うべ

一内侍のこれ血まづ入オウシ 系内なるても内侍の官クシ 下うくする

一内侍あましくおゆるはしてオウシ 内侍司中オウシ 尚侍典侍掌侍女端オウシ

は四寺の官も霜月ハ女官也内侍のこの内り人まづご也

一ちんばいもあれをくまらひオウシ 紫ハこいつ紙をばさよくちるゆ也

一ちんばいもあれをくまらひオウシ ちんばいもあれをくまらひ

一ちんばいもあれをくまらひオウシ ちんばいもあれをくまらひ

一ちんばいもあれをくまらひオウシ ちんばいもあれをくまらひ

一ちんばいもあれをくまらひオウシ ちんばいもあれをくまらひ

一ちんばいもあれをくまらひオウシ ちんばいもあれをくまらひ

一ちんばいもあれをくまらひオウシ ちんばいもあれをくまらひ

一ちんばいもあれをくまらひオウシ ちんばいもあれをくまらひ

一ちんばいもあれをくまらひオウシ ちんばいもあれをくまらひ

一ちんばいもあれをくまらひオウシ ちんばいもあれをくまらひ

一ちんばいもあれをくまらひオウシ ちんばいもあれをくまらひ

一ちんばいもあれをくまらひオウシ ちんばいもあれをくまらひ

一ちんばいもあれをくまらひオウシ ちんばいもあれをくまらひ

一ちんばいもあれをくまらひオウシ ちんばいもあれをくまらひ

一ちんばいもあれをくまらひオウシ ちんばいもあれをくまらひ

一ちんばいもあれをくまらひオウシ ちんばいもあれをくまらひ

「ららららら 菓子ちびり物也 墨子櫻子ぶらりられ上ぶ

らをうらうら物也 一らうらめうら 厨下也

「らうげ 老翁也 一らうら 結ばずせやうら

うらうらやうら 一らうらうら 宰勢

じ

「ひねあきま じねのうらうらをま也

「じうれいもまうらうて 文衣の在せれい 涼をつれて

系内志ぬ入也 一じびび じうらうらま也

「じりん親とのみせれいせち也 親主ハ一おらうらおらうて

いもあやみおまわらうらうらぶおらうらうらぶ 無おらうらやが

も母方の親類を外戚と云外縁のむらう

「じびびつら 涼度と夢のこのむらうらと云らうら元服の時

のうらゆひのまやあやまのうらうらうらうらと涼のうらうらうら

男女のうらゆひは糸の糸とてじうらぶゆらうら

「じつれいじうらうら 一じけよ 無下

「じつれい じうらうら 親云

「ひののうらうらうら 夕方の泪はあまらぬし

「ひぐらうら 豆のま也 一じさい ちえちえとれま

「ひくつけら 物そらうら 養蠶 貪 白氏

「じつらうら ちうらま也 一じひつがれて ちうらうら

「やま也 一じじんよ 無盡

「じびび じうら 一じねく 家のね

よひてりちぶちるあやめ也 花 物の棟梁ちめ也

一 じうきんらんらん 三橋の味成やうの治一也

三橋の味成やうの治一也 寛平法皇河多院の御時

一 じう物成ちがひも 寛平法皇河多院の御時

寛平法皇河多院の御時 治一也 我天子

いふことのみあはれ治うもろこし

一 じうの戸室のか 一 じう物成ちがひも

子女 仲意お 十め六へて女母よとられてあはれちがひも

うせもたてて 出たにもあはれちがひも

人ごぞよ 一 じう物成ちがひも

あはれちがひも 一 じう物成ちがひも

一 じう物成ちがひも 一 じう物成ちがひも

一 じう物成ちがひも 一 じう物成ちがひも

一 じう物成ちがひも 一 じう物成ちがひも

一 じう物成ちがひも 一 じう物成ちがひも

一 じう物成ちがひも 一 じう物成ちがひも

一 じう物成ちがひも 一 じう物成ちがひも

一 じう物成ちがひも 一 じう物成ちがひも

一 じう物成ちがひも 一 じう物成ちがひも

一 じう物成ちがひも 一 じう物成ちがひも

一 じう物成ちがひも 一 じう物成ちがひも

一 じう物成ちがひも 一 じう物成ちがひも

一 じう物成ちがひも 一 じう物成ちがひも

ふ月の野射の時中々將の着をすつ前や紫系大内の時し
水の陣こそく一條と東へととりよしてたをひ取の程とて
物也

一ひらき記のうごめふ紫のよ

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一ひらきの人のぬぞ 并に故乃

一 じり 物ごころも色物えをせころを。花七女寺單ちりどく
此備經物切經骸を施入せられしを引り

一 じり の世にも 幸考ころいめでせられり也

一 じり 久ゆり物り 先ニ院人の此湯はまいつりて後此ひ人湯は
宣旨まいつりや光明衣の上のまいつりあつる也

一 じり まきひ 馬さひい苗時中おほの者云云

一 じり け人のあつらとちびり 糸書云 琴動天地感

鬼神云々 一 じり んの女房 無心

一 じり の世にもちりやい 伊勢地獄は業年の二条宿せぬすそ

あつらしりや 一 じり 物ごころもとせられり也

あつらしりや 一 無言太子 何とあ 無言太子 波羅

ナホノ 茶王うらちあ。名体魄。容端正。生而十二年不云

一 じり ひさく けふとぶらちりども法花經は疾よく申はるえ

一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ

一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ

一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ

一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ

一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ

一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ

一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ

一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ 一 じり 物ごころ

二ノ宮

一うららかに 何と云ふも 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一うららかに 風をふくむも 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一うららかに 柳をふくむも 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一うららかに せんくも 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一うららかに うれしき也 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一うららかに の力を 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^{セイヤ} 親也 人ぐらし 呼の 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^{モスル} うららかに のも 伊勢集 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^{ホカ} つかい 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^{ウツク} うららかに 優婆塞 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^{コエ} 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^セ 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^{ホカ} 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^セ 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^{ウツク} 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^セ 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^{ウツク} 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^セ 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^{ウツク} 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^セ 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^{ウツク} 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^セ 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

一 ^{ウツク} 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

三ノ宮

二ノ宮

一うららかに 何と云ふも 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし
一うららかに 風をふくむも 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし
一うららかに 柳をふくむも 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし
一うららかに せんくも 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし
一うららかに うれしき也 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし
一うららかに の力を 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし
一 ^{セイヤ} 親也 人ぐらし 呼の 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし
一 ^{モスル} うららかに のも 伊勢集 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし
一 ^{ホカ} つかい 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし
一 ^{ウツク} うららかに 優婆塞 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし
一 ^{コエ} 世に 無事なるがごとし 世に 無事なるがごとし

あつた

一うのーとりのる 涼衣のふ

とらふらうらうーとらふらや

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

つらうらうらふらや

一うらふらうら びんをさるわ

あつた

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

あつた

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

あつた

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

あつた

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

あつた

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

あつた

一うのりふ心ちとそ 涼のふう

一 イサナ 舟あり 舟の 花 花の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

ひ出ぬる 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

は 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

あり 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 イサナ 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

れーはさうろく

一尋れひく

ニセイ 山製紙代乃

昔よ及ちぬ心ぞもどあそびくけり也

一うらさかきを うらさかき者^{ハハス} とうらさかき心也

一うらさかきれひくめく うらさかき心也

一うらさかきれひくめく 名^{メイ}取^キの尋^{イロ}さあり

めくろきまや

一うらさかき

柳^{ヤナギ}の舞^{マヒ}の池^{ウミ}也

後^{カミ}文集

一うらさかき

雅^{ヤタ}系^{ケイ}察^{サク}人^{ニン}也

一うらさかきれひくめく 夜^ヨ氏^{ウヂ}よあそび 一せは氏^{ウヂ}の人の也^{ノヒトノ} 是^{コト}也^ノ

うつ木の御^{ミコ}統^{トウ}よ。夜^ヨ原^{ハラ}れさぞく 一せの御^{ミコ}氏^{ウヂ}よそよ大^{オホ}和^ワす

と云^ト人^ニもあそび 二人^ニあそびくけり 一人^ニは政^{セイ}大^{ダイ}長^{チヤウ}の娘^{メギ}一人^ニは時^{トキ}の

山^{ヤマ}門^{カド}の山^{ヤマ}うらと後^{キヤウ}版^{バン}の山^{ヤマ}の山^{ヤマ}也^ニ 後^{キヤウ}版^{バン}の九^クはあそびなり

わてはさかきれひくめく 夜^ヨ氏^{ウヂ}よあそび 一せは氏^{ウヂ}の人の也^{ノヒトノ} 是^{コト}也^ノ

うらさかきれひくめく 夜^ヨ氏^{ウヂ}よあそび 一せは氏^{ウヂ}の人の也^{ノヒトノ} 是^{コト}也^ノ

一うらさかきれひくめく 夜^ヨ氏^{ウヂ}よあそび 一せは氏^{ウヂ}の人の也^{ノヒトノ} 是^{コト}也^ノ

一うらさかきれひくめく 夜^ヨ氏^{ウヂ}よあそび 一せは氏^{ウヂ}の人の也^{ノヒトノ} 是^{コト}也^ノ

一うらさかきれひくめく 夜^ヨ氏^{ウヂ}よあそび 一せは氏^{ウヂ}の人の也^{ノヒトノ} 是^{コト}也^ノ

一うらさかきれひくめく 夜^ヨ氏^{ウヂ}よあそび 一せは氏^{ウヂ}の人の也^{ノヒトノ} 是^{コト}也^ノ

一うらさかきれひくめく 夜^ヨ氏^{ウヂ}よあそび 一せは氏^{ウヂ}の人の也^{ノヒトノ} 是^{コト}也^ノ

一うらさかきれひくめく 夜^ヨ氏^{ウヂ}よあそび 一せは氏^{ウヂ}の人の也^{ノヒトノ} 是^{コト}也^ノ

一うらさかきれひくめく 夜^ヨ氏^{ウヂ}よあそび 一せは氏^{ウヂ}の人の也^{ノヒトノ} 是^{コト}也^ノ

一うらさかきれひくめく 夜^ヨ氏^{ウヂ}よあそび 一せは氏^{ウヂ}の人の也^{ノヒトノ} 是^{コト}也^ノ

一うらさかきれひくめく 夜^ヨ氏^{ウヂ}よあそび 一せは氏^{ウヂ}の人の也^{ノヒトノ} 是^{コト}也^ノ

一うらさかきれひくめく 夜^ヨ氏^{ウヂ}よあそび 一せは氏^{ウヂ}の人の也^{ノヒトノ} 是^{コト}也^ノ

一うらさかきれひくめく 夜^ヨ氏^{ウヂ}よあそび 一せは氏^{ウヂ}の人の也^{ノヒトノ} 是^{コト}也^ノ

一 新らしひめ コノヒメ 遊遊のよせ キミ けりけりこのせ カモ 鴨の子

一 けりけり カモ 鴨の子

一 うらめ カモ 鴨の子

一 うらめ カモ 鴨の子

一 うらめ カモ 鴨の子

一 うらめ カモ 鴨の子

一 うらめ カモ 鴨の子

一 うらめ カモ 鴨の子

一 うらめ カモ 鴨の子

一 うらめ カモ 鴨の子

一 うらめ カモ 鴨の子

いせよあつたれども カモ 鴨の子

いせよあつたれども カモ 鴨の子

一 うらめ カモ 鴨の子

の

一 のら カモ 鴨の子

一 のら カモ 鴨の子

一 のら カモ 鴨の子

一 のら カモ 鴨の子

一 のら カモ 鴨の子

一 のら カモ 鴨の子

一 のら カモ 鴨の子

時をせめていばなむとていふをせりては

一のちう二れとていふとて馬をうらまへて弓射をせり

らとていふに二月のちよまゐるちうを三月まで延引せり

三月も満雲女院の忌月なれば又延引也

一のちうてのせ あつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

一のちうてのせあつてのせといふも同一上右のち也

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

衣下帯は髪とあがりうすき衣や錠釵ちがや

一 くれうへも 禁中法洞はくられて月とゆへんずうよぬあ
らふの常の月いぶよいけんられや

一 くれや 玉親國母こころあれたるべし 國のちやと
ふいふ茶院のち上天皇のち号せえりふいふはひは
つとすまればゆへうすれくちやちやけのちうす
の天よと輔作しとちやちやたまへつあよそちやとえり
一 ぶちやけのちうすれふはそのちやと

一 くれんさ 冠者やえ服する人をちやと書しちや

一 くれん くち下や或腐ちやと

一 くれちやちや ちやちやちやちやちやちやちやちや

一 くれんさ 権也 一 くれんさ

一 くれち 菓子や何まれ也 一 くれち ぶちやちや

一 くれち 心よ実ちやちやちやちやちやちやちやちや

一 くれち けちやちやちやちやちやちやちやちや

一 くれち ちやちやちやちやちやちやちやちや

一 くれち ちやちやちやちやちやちやちやちや

一 くれち ちやちやちやちやちやちやちやちや

一 くれち ちやちやちやちやちやちやちやちや

一 くれち ちやちやちやちやちやちやちやちや

一 くれち ちやちやちやちやちやちやちやちや

一 くれち ちやちやちやちやちやちやちやちや
皇室な原氏四十九自乳文後に相去朝總書之見文釋一生

有必滅釋者未竟梅檀之類亦及良策天人猶逢五衰

目此類文之詞也 ワカシ 一くく人らりしとくかひあはる

壽と賜也五位より爵位の初なり ハシメ 花人ふては一様日本

あぐし正月は此叙位 ニ 六位の花人の必地壽とて授 ニ 後五位下

きくくもや私云花人ふては ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

一くくつさく ハ 功也 ニ 功也 ニ 功也 ニ 功也

車ホと云や

うぬ焼物の名也

いふもつゝて除名とみへりてさうつゝさういふ除名とみへり

やむもつゝてこのいふもつゝさういふ官位と云ふのいふもつゝて官位の人

よるもつゝて云ふ源氏も除名せられしはつゝて其故の並長と云

りてつゝて此の配流の人と云ふは除名するもつゝて除名せられしは

流流せられしはつゝて此の配流の將士と云ふもつゝて源氏の除

名にたすの例と用ゝる也菅原高明公行平周公且みられ

りてつゝてさうもつゝて

季の行法也

つゝて轅とみへり也

一々つゝてさうもつゝて

一官爵と云ふれす 源の流罪

いふもつゝてさうもつゝて

やむもつゝてさうもつゝて

よるもつゝてさうもつゝて

りてつゝてさうもつゝて

流流せられしはつゝて

名にたすの例と用ゝる也

りてつゝてさうもつゝて

季の行法也

つゝて轅とみへり也

のいふもつゝて 櫛中若香童若うらふらふれおのさこのいふもつゝ

の髪とつゝて打さういふれは若の若ともつゝ也

一々もつゝれみへりてつゝて心とけり人へ達兼れ難到りしを知

ちてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝて

つゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝて

つゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝて

つゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝて

一々もつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝて

一々もつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝて

一々もつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝて

一々もつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝてつゝて

面々^{オホ}ら^バ来^{ウラ}裏^ミ知^チ梅^{ウメ}ち^ウと^ニ云^クそ^ノ玉^{タマ}や^ウふ^クら^ウら^ウる^ルと^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノわ^リの^ハい^クと^モ思^フへ^ルり

や^ウら^ウり^ノ子^コ入^リに^ハ黒^クく^ラる^ルや^ウと^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ昔^{ムカシ}武^ブ津^ツ直^ナ直^ナと^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ内^{ウチ}有^ア典^{テン}葉^{エフ}官^{カン}人^{ニン}の^ノや^ウの^ノ成^ナ成^ナと^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ法^{ホウ}時^ジく^ク玉^{タマ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ各^{カク}種^{シュ}の^ノ種^{シュ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

一^クら^ウこ^ノこ^ノ海^{ウミ}の^ノ海^{ウミ}と^モ思^フへ^ルり

氏とハ非よむと人ゆりまうとてしもらふとて。後梅三治心丸

一 くらすれ 今葉山城玉愛岩都らり月小望ついと雲霞也

一 翠栢下社也寛仁二年十一月廿六日陣定ありて官符をか

されおつりぬび物候しらすの心さうららんといふ也又

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

立田門よりうらつらん也 一 雲霞と 雲候玉宅 地人らどの

心丸 雲霞の中よりありつらん也 一 雲霞と 雲候玉宅 地人らどの

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

一 くられるおのまけと 紅い襟袴と服の時い黄からよ滌て一暮の

一 雲のころころ 横川ハ雲のころ山もれだびあつらんもあつらん

月と波力より一しる也

一山びと あまびの同俗にこむ

とふふれや

一山へ山とごらりての敷山のよ也

寺と久の三井もと知や

一やうう 金廊やとらうと也

一やうひ 三月つきの月もかりけしよ也 正月もいづも

二月いさゆら四月うらさみ月うらさみつれもいれ也

一山がこ 哀山吹のよめい面へ 哀山吹の面へ 哀山吹の面へ

朽柴裏芽也 一山のきもおごらう 琴のま

へとさそ 鶴雲おらうらら地の葉もうらふとらりあや

一山さよまらりわらう くらう人危志のつとせ流る也

一やうもえさささ守 是いささささあや

一やうよゆり くらうと針と地紙と書也 山紙と書てい山づも

井と後やうい惣名也

一やうのぬと なるがやれもれ

らや 女女院のれもなるがやうい心づうらうをり

去年の九月に女女のぬらうい心づうらうの今女女院の

ぬらうい心づうらうの今女女院の

一山つと 集日本記 土産 畏万俗よりやげと云の也

一三月女日あまりの行 女女符た遠き事符と安和二

三月廿六日也 一三月のつとらうらうこの日

三月朔日あつらうと云 世風記云三月上巳桃花水下一刻飯

食為肺瘵漢去礼儀志云三月上巳日宮人置襖飲於東流水

上上巳被櫻のやう 詩事大成あつらう三月地衣水下一刻

蘭葉拓魂續能校除不祥

節もさうめい... 下製の良時節... 橋梅

ハ十一月より差用す... 史記曰楚有養由基者善射

一柳の葉も... 皆曰善射

有也去柳葉百步而射之... 數千人

皆曰善射

一山あわ... 竹のう

架茂疎村... 緒別等... 各用射

一柳とさづりて... 楊柳と白さ

一湯成院の... 湯成院の... 或る

葉花とあをさ... 湯成院の

一湯成院の... 湯成院の... 或る

うきれと... 桃南の式

一山里の長と... 比内冬の名

一山づれ... 心流ちり

やうのへ... 常の心

一や... 遊や

一山... 山をい

一や... 山れ

と... 山づれ

ひ... のの

一山... の

と... の

らんをれはよわ

一やがわりの 敷きよも日の

ひらひらとさうしてのや

一やわらしもく 昔やうりさる

ふじのまきすに夜あふーぶーんをれは我生のうまひる

と穿生ぬき入らるる

一やれらるゝ 友契也

一やどらよ 前の巻の事よといひ世なり

一やうらうら 戒と破すもあはれごとき者の白なる

一やとまればなる 浮舟の秋の代に路へ入りてあつたはれとねよ

小豆のうづらり人の黄のなまきとてはつるもあはれ舟の舟

一はらぬ心よとて人さうへはつるもあはれ不審なる也

や

一やどしゆら 吾徳のゆきり相やと行のじくもあはれ

一やうけの志 儲志 カキタ 兼也 ミツル

一やうのや ミツル もあは セシ 日本記 ヤシ 兼也 ミツル

一やうらうら ミツル ともあは セシ 日本記 ヤシ 兼也 ミツル

一やうぞちん ミツル ともあは セシ 日本記 ヤシ 兼也 ミツル

一やうぞら ミツル ともあは セシ 日本記 ヤシ 兼也 ミツル

一やうら ミツル ともあは セシ 日本記 ヤシ 兼也 ミツル

一やうら ミツル ともあは セシ 日本記 ヤシ 兼也 ミツル

一やうら ミツル ともあは セシ 日本記 ヤシ 兼也 ミツル

一やうら ミツル ともあは セシ 日本記 ヤシ 兼也 ミツル

一やうら ミツル ともあは セシ 日本記 ヤシ 兼也 ミツル

一やうら ミツル ともあは セシ 日本記 ヤシ 兼也 ミツル

一 舟をせしむ。真帆マホと云ふ。舟も真帆と

いふ舟をせしむる也

一 せんか 真名マナ也

一 舟にやらの也

一 舟と 真人マコトおがらて云ふ也

一 舟らうと 舟人フネウヂ也

一 舟の 帆をせしむる也

一 舟らうと 舟也

一 舟と 舟のすまひ

らめし人の舟と云ふ也

一 舟らうと 舟陽舟フネヨウフネのすまひ也

一 舟らうと 舟 八月九月 舟夜フネヨ 舟文集

一 舟らうと 舟 厭術イヤジュツが指す也

一 舟の舟らうと 舟の舟らう也

一 舟の舟らうと 舟の舟らう也

一 舟らうと 舟の舟らう也

一 舟らうと 舟の舟らう也

一 舟らうと 舟の舟らう也

一 舟らうと 舟の舟らう也

一 舟らうと 舟の舟らう也

一 舟らうと 舟の舟らう也

一 舟らうと 舟の舟らう也

一 舟らうと 舟の舟らう也

一 舟らうと 舟の舟らう也

一 舟らうと 舟の舟らう也

一 舟らうと 舟の舟らう也

一 舟らうと 舟の舟らう也

一 舟らうと 舟の舟らう也

一 舟らうと 舟の舟らう也

一 舟らうと 舟の舟らう也

のとうらののし

一 まらりし

道安寺鐘歌枕 白承天

一 まらりし 海をぬぐいし 人の心のひらりし

あはれ申す ぬぐいし 海の岸の落るる ぬぐいし

一 まらりし

定家流 ぬぐいし

や摩訶那波 日本記

一 まらりし

の髪 ぬぐいし

一 まらりし

一 まらりし

西宮 ぬぐいし 白舞人 起る 唱万葉集 祝皇 延祚 億年

すてはらのゆき ぬぐいし 漢昔よりひてが

あはれ申す ぬぐいし 舞人の

氏の志の口すいよのゆき

一 まらりし

一 まらりし

一 まらりし

一 まらりし

一 まらりし

一 まらりし

一 まらりし

一 まらりし

一 せうじいへて 神楽とて 神系有千歳早哥カクニミとて 神也

一 まもろとつうく 海島一山 息不吹うんうの久ミタヤ八ミタヤ神の守護ミタヤ

一 松野人 せうじいへて 神系有千歳早哥とて 神也

一 まうびつとるれ 仁和のやまの天見 摩訶毗盧遮那ニウジ

一 父日とせ 一行人の

一 眠るれとて 一行人の

一 せうじいへて 一行人の

一 松ヶ崎とて 松のわよあつ石也

一 松崎のあまれ 衣のまうく せうじいへて 一行人の

一 まうびつとるれ 仁和のやまの天見 摩訶毗盧遮那

一 せうじいへて 一行人の

一 松の葉とて 仙人 王堯 食松葉 不飢 壽百七十余年

一 すいいのいれ也

一 まうびつとるれ 仁和のやまの天見 摩訶毗盧遮那

一 まうびつとるれ 仁和のやまの天見 摩訶毗盧遮那

一 まうびつとるれ 仁和のやまの天見 摩訶毗盧遮那

一 まうびつとるれ 仁和のやまの天見 摩訶毗盧遮那

一 まうびつとるれ 仁和のやまの天見 摩訶毗盧遮那

一 まうびつとるれ 仁和のやまの天見 摩訶毗盧遮那

一 まうびつとるれ 仁和のやまの天見 摩訶毗盧遮那

一 まうびつとるれ 仁和のやまの天見 摩訶毗盧遮那

一 まうびつとるれ 仁和のやまの天見 摩訶毗盧遮那

一 まうびつとるれ 仁和のやまの天見 摩訶毗盧遮那

一 ちさぐらり ちさぐらりぐれととてあそぶ也

け

一 けらうの更衣 ヒキギ 地味淡の三四位のちりふちらふん。更衣
と三階よりちりてちりつよりしてハ。桐臺の更衣ハ中れ也

一 けふくむぶさのりも 更衣の星よそのものをいり

一 けちて ちりひらや。ちりてちりてもちやと也

一 けうあをけふ 奥あぶし

一 けしきざい ざれとともまよ上れ河よつらそ心さしめり也

一 けらひ カヒ 氣果花 ケハニ 秋場 一 けらひ河 カヒメ 結目 ケヒメ 掲目

一 けらうのあめ けらうのあめ也 何 カヒケラウ 不下習 不性

一 けらうさ ケチカキ 氣道 一 けらう ケチ 下宿也

一 けらうく カヒ 賜息也

一 けらう カヒ 暮のちや

一 けらう カヒ 氣道

一 けらひ カヒ ちりつてちりてちり也

一 けらうさ カヒ 氣味 ケチカキ 氣味

一 けらう カヒ ちりつてちりてちり也

一 けらう カヒ 氣味 ケチカキ 氣味

一 けらう カヒ ちりつてちりてちり也

一 けらう カヒ 氣味

一 けらう カヒ ちりつてちりてちり也

一 けらう カヒ 氣味 ケチカキ 氣味

一 けらう カヒ ちりつてちりてちり也

一 けらう カヒ 氣味 ケチカキ 氣味

一 けらう カヒ ちりつてちりてちり也

一 けらう カヒ 氣味 ケチカキ 氣味

一 けらう カヒ ちりつてちりてちり也

親^{タチ}に近^{タチ}遠^{タチ}源氏姓とすや。北光源氏

一けい^{ケイ}く^ク 衣冠の御書也 一けいん^{ケイン}が^ガ 誘

一けう^{ケウ}さ^サさ^サ子^シぶ^ブさ^サ 衣とささ子ぶさどりがごとし。六條具

ら^ラ心^{シン}也 一けい^{ケイ}の^ノ六^{ロク}日^{ニチ}れ^レの^ノれ^レの^ノ 長神

物忌也長神方遠^{カタタ}公^{キミ}日^ヒ六^{ロク}日^{ニチ}續^{ツグ}す^ス也。又一^タ説^{セツ}け^ケう^ウて^テも^モく^ク地^チ忌^イ

く^クが^ガら^ラく^クく^クく^クこ^コ心^{シン}ゆ^ユべ^ベ。天子^{テンシ}れ^レの^ノ地^チ忌^イの^ノあ^アら^ラく^ク日^ヒ也

一けい^{ケイ}ち^チえ^エん^ンち^チり^リけ^ケ 揚^{キョウ}書^{ショ}あ^アら^ラる^ルの^ノ火^ヒ氣^キと^ト也

一けい^{ケイ}う^ウさ^サう^ウー^ー 源氏^{ゲンシ}の^ノい^イま^マや^ヤう^ウと^トん^ンと^トれ^レ心^{シン}也

一けい^{ケイ}う^ウの^ノり^リり^リと^トり^リて 翰林^{カンリン}の^ノ人^{ニヒト}出^デて^テす^ス也。韻^{イン}の^ノ字^ジと^ト

切^キ韻^{イン}と^トて^テ何^{ナニ}字^ジと^トり^リて^テ韻^{イン}と^トり^リて^テも^モあ^アら^ラす^ス也。又^{マタ}韻^{イン}の^ノ中^{ナカ}に^ニも^モ韻^{イン}

と^トして^{シテ}韻^{イン}の^ノ又^{マタ}文字^{モンジ}の^ノ中^{ナカ}。平^{ヘイ}声^{セイ}の^ノ字^ジと^ト取^{トル}て^テ韻^{イン}と^トり^リて^テも^モあ^アり

又^{マタ}何^{ナニ}韻^{イン}と^トして^{シテ}作者^{サクシャ}の^ノ心^{シン}も^モあ^アら^ラす^ス也。又^{マタ}何^{ナニ}時^{トキ}も^モあ^アら^ラす^ス

一源^{ゲン}氏^シの^ノう^ウら^ラつ^ツく^クと^ト右^{ミダ}也。衣^イ冠^{クワン}の^ノ中^{ナカ}に^ニも^モ衣^イ冠^{クワン}の^ノ後^{ノチ}に^ニも^モ衣^イ冠^{クワン}の^ノ中^{ナカ}に^ニも^モ

源^{ゲン}氏^シの^ノ姓^{セイ}と^ト始^{ハジ}り^リて^テい^イま^マも^モ帝^{テイ}主^{シュ}親^{シン}主^{シュ}の^ノ女^メと^トい^イは^ハす^ス也。

心^{シン}衣^イ冠^{クワン}の^ノ中^{ナカ}に^ニ絶^{ツツ}す^ス也。一けい^{ケイ}う^ウー^ーと^トい^イは^ハす^ス也。化^カ粧^{セウ}力^{リキ}と^トい^イは^ハす^ス

く^クつ^ツく^ク心^{シン}也 一けい^{ケイ}ー^ーと^トい^イは^ハす^ス也。けい^{ケイ}の^ノう^ウら^ラつ^ツく^クと^トい^イは^ハす^ス也。

紫^{ムラサキ}衣^イ冠^{クワン}也 一けい^{ケイ}さ^サう^ウと^トい^イは^ハす^ス也。孔^{コウ}氏^シの^ノい^イま^マと^トい^イは^ハす^ス也。

ら^ラら^ラく^ク。あ^アら^ラる^ル心^{シン}也。い^イま^マも^モあ^アら^ラす^ス也。一けい^{ケイ}ぞ^ゾん^ン 家^ケ指^シ家^ケの^ノい^イま^マと^トい^イは^ハす^ス也。

こ^コの^ノ心^{シン}也 一けい^{ケイ}ぞ^ゾん^ン 孝^{コウ}ぞ^ゾん^ン也

一けい^{ケイ}ん^ンは^ハら^ラと^トい^イは^ハす^ス也。衣^イ冠^{クワン}の^ノ後^{ノチ}に^ニも^モ衣^イ冠^{クワン}の^ノ後^{ノチ}に^ニも^モ衣^イ冠^{クワン}の^ノ後^{ノチ}に^ニも^モ衣^イ冠^{クワン}の^ノ後^{ノチ}に^ニも^モ

万^{マン}葉^{エフ}遺^イ我^ガ鶴^{カク}衣^イ冠^{クワン}と^トい^イは^ハす^ス也。或^{アル}説^{セツ}顯^{ケン}衣^イ冠^{クワン}と^トい^イは^ハす^ス也。

と^トい^イは^ハす^ス也。衣^イ冠^{クワン}の^ノ中^{ナカ}に^ニも^モ衣^イ冠^{クワン}の^ノ中^{ナカ}に^ニも^モ衣^イ冠^{クワン}の^ノ中^{ナカ}に^ニも^モ衣^イ冠^{クワン}の^ノ中^{ナカ}に^ニも^モ

目録

まればまする地とあり。船水衣あつらん云々。歎名也如胤とのり
拾遺云。つらふのくもさぬと。光が将入。横河。すまゆけつよ。
中家あひれ。けつ。尋。判紙。

一ふでのちりらうせ。おほむ記のち記と也

一ふのいん。詩と被誦する所。中。文藝と也

一ふの。下。海。嶼。す。也

一坂のえん。あふ。おほやけ。あつらん。て。大。長。此。亭。は

て。若。是。家。あ。又。天。曆。三。月。四。月。二。日。志。者。舎。夜。花。宴。あ。和。尚

管。法。あ。ず。不。洋。と。う。え

一ふの。長。恨

丹。唐。中。外。の。異。翠。家。宴。と。あり。呼。白。氏。文。集。中。十。二。唐。中。引

勅。処。旧。枕。故。衣。誰。と。去。え。む。叶。源。氏。也。永。正。七。七。六。記。う。

一ふらやうらり。不定也。一文主の子式主のあつらう

史記魯世家周去自稱河。つら。成主の河。つら。れ。あ。つ。らん

と。つ。ら。あ。つ。らん。周。去。の。手。位。の。つ。あ。つ。らん。武。主。の。後。成。主。の。位

は。付。あ。つ。らん。い。物。成。と。あ。つ。らん。年。雀。院。の。脱。履。あ。つ。らん

今。上。れ。位。は。付。あ。つ。らん。年。雀。院。の。次。成。主。の。冷。泉。院。志

以。位。は。付。あ。つ。らん。成。主。の。河。と。う。の。路。え。す。らん

ん。今。今。之。の。心。也。我。文。主。と。あ。つ。らん。武。主。と。あ。つ。らん

成。主。と。あ。つ。らん。叔。父。也。天。下。亦。不。賤。矣

一文集。白。末。夫。の。詩。賦。と。あ。つ。らん。七。十。二。卷。あ。つ。らん。長。慶。集

一ふんのつら。勅。石。書。司。云。

一 舟 葉ふらと居らふか 舟を改めわくハ儀美志位袍より入らる

一 菰衣よりちりやつね法 胎衣とくしき給ちりや

一 うられそのよ 奥入より舟と不用云く舟神凡俗ちりよ只後

分の程ありと心給てまへーと云く

一 やいふまのいさざち 護や河海一琴れ譜のより行と略く

一 せんどりちりて 地氣と封一落か行務者の住也

一 ありごさう 女三層の吹あても田ぶる記さ海也

一 ありとやんし 源氏のさすも女三層のさすも終止と也

一 ありめさ心 古風ちり心よりちりや

一 ありちのあられ 琴れけよりちりおよ更は初とわりぬも也

一 あり竹よりささる 柏葉差申れらる凡ら凡思よてすり

わさられやとちりぶとハ必や音律ハ皆声の調子よけて味

つらうやとちり

一 ありんちり 浮線後 唐後也

一 ありすく 終勢み殺やめまよわさちりて粉ちりて餅ちり

てゆて甘葛とけしてさまりて海とさ竹のつとて其

中へちりてちりてちりてちりてちりてちりてちりてちりて

ちりてちりてちりてちりてちりてちりてちりてちりて

一 ありちりて ちりてちりてちりてちりてちりてちりてちりて

一 身のつらさちりてちりてちりてちりてちりてちりてちりて

一 ありちり 武帝不道とちりてちりてちりてちりてちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

一 ありちり 浮海の心ハちりてちりて

稀也

一 ぼつちんちん ぼつちんちん

一 こころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ

一 ころいひ 後進 街 良 女の怒り也

一 こころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ

とずねのの 後のの 後のの 後のの 後のの 後のの

一 ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ

一 ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ

一 こころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ

一 ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ

一 ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ

一 ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ

一 夜の暑 ニヤキ 暑 サウナ 暑 サウナ 暑 サウナ 暑 サウナ 暑 サウナ

一 九日のえん ニウヤツノエニ 童陽 チウヤウ 童陽 チウヤウ 童陽 チウヤウ 童陽 チウヤウ 童陽 チウヤウ

あると モンジン 博士 ハクシ 博士 ハクシ 博士 ハクシ 博士 ハクシ 博士 ハクシ

を カウ 侍 シ を カウ 侍 シ を カウ 侍 シ を カウ 侍 シ を カウ 侍 シ

一 ね ニヤキ 侍 シ の シ 中 ナカ 納 ノウ 納 ノウ 納 ノウ 納 ノウ 納 ノウ

一 ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ

一 ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ

一 ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ

一 ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ

一 ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ

一 ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ ころいひ

一 ころろ たる地より ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころのちれ 九本 ころろ ころろ のころ

一 心あてよ ねたがいか女のりかろころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 惟光 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころのころ 小舎 ころろ 中將 ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころのころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 中法 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころの家のころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 嫡女 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ ころろ

一 らんがうしのす、金剛子念珠ニガハシノチシジユとらるるもの元興寺寅財ゲンゴウジニシサ

一 怪キヤウ九クまマとらるるもの一えんちつニルリノツツ不フ神カミ福フク瑞ズイ雲ウン朝チウ

一 馬ウマと貴布祢キフネの中に傍ナリ正マサ谷ヤと云イハレの茶チャ山サン仏ブツ不動フドウの靈レイ蹟ジツの

地チや茶チャ山サン仏ブツの壺ツバで傍ナリ於オの送ソウ物モノとらるるもの

一 ことばコトバ智チ者シャとらるるもの物モノとらるるもの

一 心ココロとらるるもの女メの人は茶チャのよヨとらるるもの

一 心ココロとらるるもの夢ユメとらるるもの茶チャの休ヒユ也ヤ

一 こと人のいイらんやうにニ今イマぬヌの佛ブツ氏のシたタとらるるもの

一 心ココロとらるるもの心ココロとらるるもの

一 心ココロとらるるもの天子テンシとらるるもの

一 心ココロとらるるもの心ココロとらるるもの

一 心ココロとらるるもの心ココロとらるるもの

一 心ココロとらるるもの心ココロとらるるもの

一 心ココロとらるるもの心ココロとらるるもの

一 心ココロとらるるもの心ココロとらるるもの

一 心ココロとらるるもの心ココロとらるるもの

一 心ココロとらるるもの心ココロとらるるもの

一 心ココロとらるるもの心ココロとらるるもの

一 心ココロとらるるもの心ココロとらるるもの

一 心ココロとらるるもの心ココロとらるるもの

一 心ココロとらるるもの心ココロとらるるもの

一 心ココロとらるるもの心ココロとらるるもの

一 心ココロとらるるもの心ココロとらるるもの

きくあれ下くくくくくくくくくくく

一 あらい とつりて ミコト ころけり也 ニイハレ 一 ニイハレ 儀の日出く人の目今業

サキホクキ 儀の法院卜定き後 ノキニ 儀のぞくし ニイハレ 儀のぞくし

すくは初法院への初法院へ ニイハレ 木内の中 サシ 大膳識或は近符など

と照して ミコト それより サキ 紫の サキ 其の ニイハレ 四月の ニイハレ 社へ

りんと ミコト 祭のおよ ミコト 吉日と擇て コケイ 又 コケイ 儀の サキ 別は サキ 代

入の サキ これと サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

一 サキ 二夜 サキ の サキ 儀 サキ の サキ 中 サキ 此 サキ 酉 サキ の サキ 日 サキ 矣 サキ 法 サキ 社 サキ へ

の牙の也

一湖のくまのけきしつらん女

手紙若ハ朝國の王に嫁をしつハ何れもまきりあられぶるある

りくまのくまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

るまれのまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

らくまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

一このまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

道満法師 若行権磨國云ひすれ

一このまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

一このまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

一このまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

一このまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

一このまの待候が母やどるまの物のおれは代はまきりあられぶるある

一心の 天曆三辛夜、花実の膳お姿心葉夜、花云、近代の赤物

お姿の四角よつと、金こそ松の枝さく、糸こそ紫とむすび、鶴

ちとて、心葉の中や、今こそ、機のかねも、金

て急とて、心葉の中や、今こそ、機のかねも、金

一このまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

一このまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

一このまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

一このまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

一このまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

一このまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

一このまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

一このまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

一このまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

一このまのけきしつらん女ハ何れもまきりあられぶるある

持てく人よけ作らるるふか又交れが國司く人やせと也

表のぬきぬきとくぐくや 一こまけぞ 二海もろくつてい

や子細のるや 一ころあつめととんのもつ物

何とぞん面もくつてく者一あつら楽にれつこれ栲葉の赤

ら方よりわくくやふくこい上ニ着あつめととぬよつりさるるや

一心くくまらつれ心くくまよととぬぬ紅葉のわく一ろさ

ととぬぬととぬととぬ 一こまけぞととぬ 物いひの

くまらつととぬ也 一この月いされととぬ 三九

去季の終也四季終月世俗流ととぬ也

一胡地のせつととぬととぬととぬととぬととぬととぬととぬ

見白文集 胡地妻子虚弁指後漢攻胡之時漢人共胡国不降

帰漢軍敗之故也後又従漢攻胡之時止胡人欲攻漢也此時弁
胡妻子而漢不入皮人割園之号敵也何人也仍两国互攻之意也

物語喻云 一ととぬととぬととぬととぬととぬととぬととぬ

ととぬととぬととぬととぬととぬととぬととぬととぬ

わくぬを云也 一これたがりのつととぬととぬととぬととぬ

大方れ人争よととぬととぬ也 一ととぬととぬととぬととぬ

いるる端ととぬととぬのいよととぬととぬととぬととぬととぬ

あつんのやすととぬ也 一ととぬととぬととぬととぬととぬ

和梅のいんうさるるうさるるうさるるうさるるうさるるうさるる

一ととぬととぬととぬととぬととぬととぬととぬととぬ

一ととぬととぬととぬととぬととぬととぬととぬととぬ

一ととぬととぬととぬととぬととぬととぬととぬととぬ

菅菰の葉は自然に細本首也 こまぶ 一こいの山一ちうくれうれ

花今葉孔子のうれと云ふ昔より世にうれと云ふ人なれば

ほこの聖人かれと可なりと云ふれまゝと云ふは是れ也

一こよよと云ふ かろ 一これ思ふちり カラダツレ 是に思ふちり カク

一こつれもえんちり カク 一こまの物 カク 花 カラダツレ 一こも地

一この名 カク 一この名 カク 一この名 カク 一この名 カク

一こつ カク 一こつ カク 一こつ カク 一こつ カク

一ひ カク 一ひ カク 一ひ カク 一ひ カク

一ゆ カク 一ゆ カク 一ゆ カク 一ゆ カク

一こ カク 一こ カク 一こ カク 一こ カク

一は カク 一は カク 一は カク 一は カク

一う カク 一う カク 一う カク 一う カク

一こ カク 一こ カク 一こ カク 一こ カク

一こ カク 一こ カク 一こ カク 一こ カク

一こ カク 一こ カク 一こ カク 一こ カク

一こ カク 一こ カク 一こ カク 一こ カク

一こ カク 一こ カク 一こ カク 一こ カク

一こ カク 一こ カク 一こ カク 一こ カク

一こ カク 一こ カク 一こ カク 一こ カク

一こ カク 一こ カク 一こ カク 一こ カク

一こ カク 一こ カク 一こ カク 一こ カク

一こ カク 一こ カク 一こ カク 一こ カク

一こ カク 一こ カク 一こ カク 一こ カク



菅菰

菅菰

あはれしとてりち

これゆゑにまにまにゆくん落葉

文の心琴よりも拍はのまづひのそんこれ心也

一琴れとあしう後 拍はれくれりて落葉交琴も引弦の

ぬれ心也昔伯牙鐘子期とて二人なるのて琴を引一人ある

鐘子期死後伯牙のちう今より後試琴と云知者もまにれ

むひぐとてやうとてとれと伯牙弦と弦とはつち

一声よつとつち 琴の徳様のものも夕方と拍子の知るを云

一それのこももあへるもそ 落葉の思史を引あへるものもそ

あはれとての心とて 一これよらんゆゑにゆく心とて

代に拍もまごもらゆりぬの音とて

一これいあしとてり月の父 三まお申新月色に子里外故人

一これとてやう 業障

一これとてん 心とてれゆり神也

一これわとてあて 雲おと夕方と此中とのあつての心後の心也

一い若くそ あり日と云ふ也 一これれりゆひ 天人の心れど

く香也三十二おの吹二の色完くうも也大和宗師知香跡ま

生うく時一室まうとて聖法大もも同

一心のうとてわやひるこれ心也 一このまへり おまへるを合れ

一これとて 極楽の尋舞の菩薩のゆれ

一これも月とてあつち 琵琶は撥かきけりあを隠月と云面白也

木子嬌琵琶詩云す月を弦とて 一これいびてあかりくすり 我志

こひてとらんてとてあつち者の心ははとけりい死るんとてふたつたひを

と我心とてあつちの心也雪の心はは葉のあなよとてあつち葉れゆ

一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち

一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち

一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち

一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち

一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち

一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち

一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち

一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち

一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち

一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち

一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち 一 白きくち まろくち

夷陵と云ふは泊て元徹之と別し時修の約の自也 醉悲涙

春盡は哀吟若支願曉燭前

一 延喜のれもより引つて入るるも 花あやまつくまのぶもれくゆりこ

一 延喜のれもより引つて入るるも 花あやまつくまのぶもれくゆりこ

一 延喜のれもより引つて入るるも 花あやまつくまのぶもれくゆりこ

一 延喜のれもより引つて入るるも 花あやまつくまのぶもれくゆりこ

一 延喜のれもより引つて入るるも 花あやまつくまのぶもれくゆりこ

一 延喜のれもより引つて入るるも 花あやまつくまのぶもれくゆりこ

一 延喜のれもより引つて入るるも 花あやまつくまのぶもれくゆりこ

一 延喜のれもより引つて入るるも 花あやまつくまのぶもれくゆりこ

一 延喜のれもより引つて入るるも 花あやまつくまのぶもれくゆりこ

一 延喜のれもより引つて入るるも 花あやまつくまのぶもれくゆりこ

一 延喜のれもより引つて入るるも 花あやまつくまのぶもれくゆりこ

一 延喜のれもより引つて入るるも 花あやまつくまのぶもれくゆりこ

一 延喜のれもより引つて入るるも 花あやまつくまのぶもれくゆりこ

法華經の前の卷は徳長神也

一 天地のくわんをいへん 天地のくわんをいへん

一 天よびまろく人の 生天先墮三途 天よびまろく者おしを

して三途よびつるものもよび又も縁よひつれてつおろし一時

よ天よびまろくをいへん 天人のあまろくをいへん

一 天のまろくこ 天眼也 一 天べんちをいへん 天が志

まろくをいへん 一 蝶身まろくハ人 志のいへん

舞舞まろく志執もろくろ童の列舞人ちり也

一 てふいまりて 童の舞まろくすまろくぬべし

一 てうまろくゆり 舞まろくまろくをぬべしうまろくぬべし

一 舞上人いれいの心まろくのまろくすまろく 舞上人の舞中よ

うまろく院の舞上人 舞上人のまろく人かまろくをいへん

まろくをいへん 舞上人のまろくをいへん

一 院よて舞上人 舞上人のまろくをいへん

い 舞上人のまろくをいへん

一 てうまろく 舞上人 舞上人のまろくをいへん

舞上人のまろくをいへん

一 天人のあまろくをいへん

中ひまろくをいへん 八月十六日は天よのかり也

一 てんく 天物まろく星の名をいへん 天魔の類よつる



